



播磨国際協議会 設立20周年を迎えて

会長 三宅 智章
(姫路信用金庫 常務理事)

播磨国際協議会（Harima International Conference；略称HIC）をご存知の方は、この所報をご覧くださいという方のうち、どのくらいいらっしゃるのでしょうか？

播磨国際協議会として20周年、前身の播磨海外進出企業懇話会の発足から23年を迎えることができました。当時は地方の中小企業が海外展開を進めるにあたり、必要不可欠な現地の情勢・情報を入手するのは今以上に困難なものでした。

当時既に製造業を中心に播磨の中小企業の多くが海外との取引や海外拠点を持っており、これから海外展開を図ろうという方々と一緒に、情報共有を図ることを目的に創設されたと伺っております。当初から姫路商工会議所に事務局を置き、会長にはグローリー工業の貿易部長（当時）の福永正彦氏が就かれました。福永様には今でも協議会に出席いただき、アドバイスをいただいております。

この20年間で極端な会員の増減はなく、概ね40社・団体程度の会員数で活動を続けております。しかし、その内訳は時代に応じて徐々に変化を重ねてまいりました。

HICの大きな特色の一つとして、海外取引実務担当者が参加会員として登録されてきました。帰属組織によって異なりますが、人事異動の度に登録者の顔ぶれが一定数変わることになっており、自ずと時節を意識した活動内容になっているのではないかと自負しております。

また、内外格差の遷移や各企業のライフステージにより、海外に求める位相も徐々に変容しつつあります。少しでも

安価な製造拠点、新興国消費市場、インバウンド消費市場、安価で良質な労働市場…等々です。こうした変化は、会員ニーズの多様化として表れ、HICの運営を担う歴代の役員や事務局の方々に苦難を強いることもございました。

播磨国際協議会の運営上、徒に時節の流行を追うことも大切ですが、最も重視される特長は、会員相互が「海外」「播磨」というキーワードに於いて、共通の悩みを持つ者同士として、定例会後の懇親会などを通じて顔を合わせることで信頼関係を築き、何事も相談し合える雰囲気づくりです。そして、これが実現できる素晴らしい会員の方々が構成されております。

地域に数少ない国際経済交流団体として、自治体や商工会議所との連携を継続しながら、今後も発展してまいりますので、皆様方のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。



定例会開催の様子